

「海岸御台場御筒海岸炮台書」

嘉永元年（1848年）

七戸浦

泊村

一、中山崎北手之方

一、老貫目（玉）木砲

右老度打払候事



北之手大砲場 地理院 MSI Maps

右御台場丑向也 西の方弁天坂老丁程、御台場高サ五丈余、下に黒

岩多く波打揚げ荒し 北に志利屋阿部崎見得、東西江五十間、南北江老丁

程之平地也 皆中山崎と云 此処に三ヶ所有之故、北之手・中程・南之

手と云 土手左右長サ六七間、高サ四尺、厚サ五尺、柵左右折曲

り二間程、尤能御台場なり



中山崎と館上大砲場 「北奥道中図」村史より引用



木砲の想像図

柵折曲りの想像図

（現代語訳）

泊村

1 中山崎の北の手について

1 重さ約 3.75kg の砲丸（木砲玉）を 1 回発射するものとする。

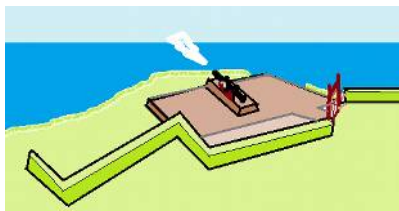
右の台場は北東から北の方角に向いている。西側には弁天坂があり、約 109 メートル（1 丁）ほど離れている。台場の高さは約 15 メートル（5 丈）余りで、下には黒い岩が多く、波が荒く打ち寄せている。

北側には志利屋の阿部崎が見え、東西に約 90 メートル（50 間）、南北に約 109 メートル（1 丁）の平地である。この場所全体を「中山崎」と呼ぶ。この地には 3 つの台場があり、それぞれ「北の手」「中程」「南の手」と呼ばれる。

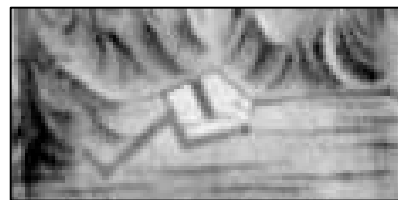
土手は左右に 6～7 間（約 10.8～12.6 メートル）の長さであり、高さは約 1.2 メートル（4 尺）、厚さは約 1.5 メートル（5 尺）である。柵は左右に折れ曲がり、長さは約 3.6 メートル（2 間）ほどで、非常に優れた台場である。



中程大砲場の土塁



中程大砲場想像図



「北郡泊村中山崎大砲場測量の図」
郷土館所蔵写真より掲載

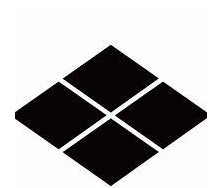
横五尺位也 其上に土俵を積候事、惣高サ北之手に同じ

つ、柵折曲り^{約2.7m}、御筒据台土手^江築出しなり 尤長サ六尺、^{約1.8m}

右御台場は北之手より五拾間程南にて^{東南東}卯辰之向也 左右土手^{約36m}二十間づ

但割菱御紋付
右老発打払候事

一、三百目唐銅筒(からかねつつ)^{約1.125kg}



割(武田)菱の家紋

一、同所南手

1 同所中程について

1 三百目唐銅筒について

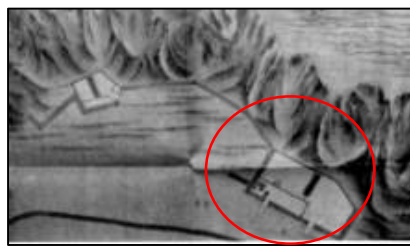
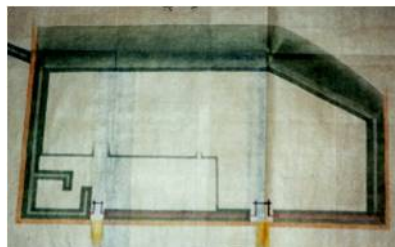
重さ約 1.125kg の銅製砲筒（唐銅筒）が設置されており、その砲筒には割菱形の御紋章が付いている。

右の台場では 1 回発射するものとする。

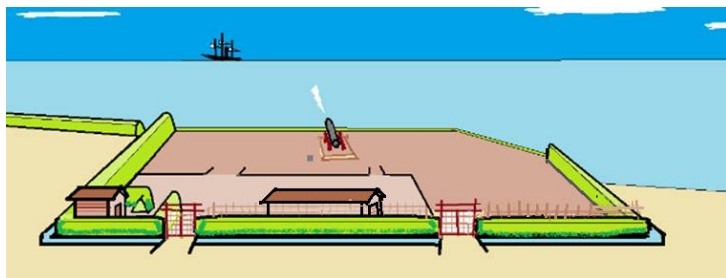
この台場は北の手の台場から約 90 メートル（50 間）ほど南に位置し、東南東（卯辰）の方向に向いている。左右にそれぞれ約 36 メートル（20 間）の土手があり、柵は折れ曲がりながら約 2.7 メートル（1 間半）ずつ延びている。砲筒を据える台は土手から突出して設置されており、その長さは約 1.8 メートル（6 尺）、幅は約 1.5 メートル（5 尺）ほどである。その上に土俵を積み、全体の高さは北の手の台場と同じである。



南手大砲場より太平洋を望む



「北郡泊村中山崎大砲場測量の図」村史上巻Ⅱより引用



「北郡泊村中山崎大砲場測量の図より、南手の御台場の想像図

約36m
二十間ほど東の方なり

場迄三四丁程、
巳の方には八戸の山見得る
但往還より

つ、外御拵方模様等も中程に同じ
泊村迄四五丁、
館の上御台

右御台場 辰の向也
中程之続四十間程南
左右土手五六間づ

右砲発打候事

一、砲貫目唐銅筒

干城 砲挺

1 同所南手について

1 砲貫目唐銅筒について

重さ約 3.75kg の銅製砲筒（唐銅筒）が 1 挺（1 つ）設置されており、それを使用して 1 回発射するものとする。

この台場は東南東から南東（辰の方角）を向いており、中程の台場から約 72 メートル（40 間）ほど南に位置する。土手は左右にそれぞれ約 9～10.8 メートル（5～6 間）の長さがあり、その外観や模様などは中程の台場と同様である。

泊村までの距離は約 436～545 メートル（4～5 丁）、館の上の台場までの距離は約 327～436 メートル（3～4 丁）ほどである。南東から少し南南東（巳の方角）には八戸の山が見える。なお、この台場は主要な道路（往還）から約 36 メートル（20 間）ほど東に位置している。